

2018 受託研究

1. 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 チーム型研究 (CREST) 脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用 (研究代表者：中部大学 津田一郎)，研究担当者 菊知充
MEGによる個体内および個体間脳機能解析 (継続)
2. 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 チーム型研究 (CREST) 第3回AIPチャレンジ, 研究担当者 長谷川千秋
ASD児における絵本読み聞かせ聴取中の脳内結合 (新規)
3. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 橋渡し研究事業シーズA, 代表 横山茂, 分担 辻知陽
自閉スペクトラム症治療薬としての長期作用型オキシトシン誘導体化合物の開発 (新規)
4. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業 ICTを活用した診療支援技術研究開発プロジェクト (研究開発代表者 大阪大学 片山泰一), 研究開発担当者 菊知充
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発 (継続)
5. 文部科学省 COI STREAM サテライト, 研究リーダー 菊知充
脳の個性を生かし, 子どもの健やかなこころを育てる街の実現: 特異から得意へのパラダイムシフト (継続)
6. 国立研究開発法人科学技術振興機構 COI 若手連携研究ファンド 平成30年度, 課題代表者 金沢大学 吉村優子, 参加者 池田尊司, 長谷川千秋
低出生体重児の生理学的指標の解明と社会性獲得過程の評価方法確立に向けた基盤研究 (新規)
7. 国立研究開発法人科学技術振興機構 COI 若手連携研究ファンド若手デジタルFS 平成30年度, 課題代表者 池田尊司
乳幼児の睡眠に最適な光環境を実現するIoTシステムを開発するための調査研究 (新規)
8. 国立研究開発法人科学技術振興機構 COI 若手連携研究ファンド若手デジタルFS 平

成 30 年度, 課題代表者 東京藝術大学 駒米愛子, 分担 田中早苗
発達障がい児におけるコミュニケーション能力を芸術活動から療育へ活用する為の効果実証と効果実証方法の確立 (分担課題名: 自閉スペクトラム症児童と親子同時計測によるアート活動の自己肯定感に及ぼす影響の検討) (新規)

9. 国立研究開発法人科学技術振興機構 COI 若手連携研究ファンド若手デジタル FS 平成 30 年度, 課題代表者 長谷川千秋
幼児用脳磁図を用いた、幼児の言語発達に関わる神経ネットワーク解明のための異文化間国際共同調査 (新規)

2018 受託事業

1. 文部科学省 いじめ対策等生徒指導推進事業 (調査研究) (研究開発代表者 大阪大学 片山泰一)
児童生徒の情動行動に関する基礎的研究と教育実践に関する研究 (継続)

2018 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費

代表

1. 基盤研究 (C), 辻知陽
社会性ホルモンバソプレシンの嗅覚系神経回路の解明 (新規)
2. 基盤研究 (B), 熊崎博一
自閉スペクトラム症者へのアンドロイドを用いた面接訓練法の確立 (新規)
3. 若手研究, 長谷川千秋
自閉スペクトラム症児における対話活動中の脳内ダイナミズム: 母親と他者との比較研究 (新規)
4. 特別研究員奨励費, 長谷川千秋
自閉症幼児の母子インタラクション中の神経ネットワーク解析による診断指標の確立

(新規)

5. 基盤研究 (C), 朱紅
ライソゾーム機能不全が自閉スペクトラム症発症に与える影響と薬物コントロール
(新規)
6. 新学術領域研究(研究領域提案型), 吉村優子
自閉スペクトラム症幼児におけるコミュニケーション態度を伝達する音声処理の脳内
基盤 (新規)
7. 基盤研究 (C), 小林宏明
吃音のある児童の指導・支援の課題等データベースの構築 (新規)
8. 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)), 堀修
RAGE シグナルを標的とした脳血管障害創薬の為の国際共同研究 (新規)
9. 基盤研究 (C), 堀修
多発性硬化症モデルマウスにおける小胞体ストレス応答因子 ATF6beta の重要性(新規)
10. 基盤研究 (C), 小野靖樹
ウェアラブルセンサーを用いた思春期うつ状態の早期発見 (新規)
11. 基盤研究 (B), 菊知充
自閉スペクトラム症幼児の症状多様性に対応する生物学的指標の検討 (継続)
12. 挑戦的研究 (萌芽), 熊崎博一
自閉スペクトラム症児への複数ロボットを用いた集団療法の開発 (継続)
13. 新学術領域研究(研究領域提案型), 熊崎博一
社交不安障害患者へのヒトの外観に酷似したロボットを用いた暴露療法の開発 (継続)
14. 基盤研究 (B), 小島治幸
感性機能側性化と視覚系機能分化との関連 (継続)
15. 基盤研究 (B), 三邊義雄
統合失調症における免疫炎症過程亢進と大脳皮質ニューロンの変化 (継続)

16. 基盤研究 (B), 大井学
語用論発達評価法の開発: 障害種別を超えて (継続)
17. 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化), 熊崎博一
新たな香り提示法による自閉症スペクトラム症児の嗅覚特性同定と療育への応用 (継続)
18. 基盤研究 (C), 齋藤大輔
社会的相互作用によるオキシトシンの分泌が、児童の認知機能に与える影響 (継続)
19. 基盤研究 (C), 吉村優子
自閉スペクトラム症乳幼児の言語獲得および聴覚過敏に関連する聴覚情報処理過程の特性 (継続)
20. 若手研究 (B), 池田尊司
脳磁図を用いた色彩調和判断における時間的機序の解明 (継続)
21. 基盤研究 (B), 橋本隆紀
統合失調症の認知機能障害とパルブアルブミン陽性細胞のオキシトシンシグナル (継続)
22. 基盤研究 (C), 荒木友希子
聴覚障害児の言葉と心の発達を促す iPad アプリ教材の開発とその実践的応用 (継続)

分担

1. 基盤研究 (A) (代表 大阪大学 石黒浩), 熊崎博一
対話支援のための遠隔操作ロボットシステムの研究開発
2. 基盤研究 (B) (代表 橋本隆紀), 菊知充, 東田陽博
統合失調症の認知機能障害とパルブアルブミン陽性細胞のオキシトシンシグナル
3. 基盤研究 (C) (代表 福井大学 高橋哲也), 菊知充

神経ネットワーク障害仮説に着目した自閉性障害におけるオキシトシン作用機序の解明

4. 基盤研究 (B) (代表 菊知充), 横山茂, 齋藤大輔, 池田尊司, 吉村優子
自閉スペクトラム症幼児の症状多様性に対応する生物学的指標の検討
5. 基盤研究 (C) (代表 大阪教育大学 石橋正浩), 齋藤大輔
自己制御課題としてのロールシャッハ法の神経基盤の探求
6. 挑戦的研究(萌芽), (代表 附属病院 金田礼三), 橋本隆紀
統合失調症の急性期におけるオープンダイアログを用いた介入について
7. 基盤研究 (B), (代表 三邊義雄), 橋本隆紀
統合失調症における免疫炎症過程亢進と大脳皮質ニューロンの変化

2018 その他

1. 学内平成 30 年度法人主導 (トップダウン) 型研究課題, (代表 理工研究域 渡辺哲陽), 熊崎博一
心と体をつなぐサイボーグ化技術の開発研究 (新規)
2. イギリス笹川財団, (代表 Aya Iguchi Sherry), 辻知陽
Collaboration with Kanazawa University, Glasgow University and Artlink Central on Social Inclusion for Children through Art (新規)
3. 平成 30 年度金沢大学附属病院臨床研究等に係る研究費の助成, (代表 協力研究員 辻隆宏), 辻知陽
社会性障害を改善するバソプレシン受容体特異的誘導体の開発 (新規)
4. 平成 30 年度金沢大学前期研究パートナー制度による支援, 辻知陽 (新規)
5. 平成 30 年度金沢大学後期研究パートナー制度による支援, 辻知陽 (新規)
6. 先魁プロジェクト 2018, (代表 医薬保健研究域 河崎洋志), 堀修

高等哺乳動物を用いた脳恒常性維持機構の統合的研究拠点の形成（新規）

7. 先魁プロジェクト 2018, (代表 医薬保健研究域 山本靖彦), 堀修, 辻知陽
グリケーションを基軸とした老化研究の世界拠点の形成（新規）
8. 共同研究（株式会社リコー）, 熊崎博一
自閉症スペクトラム症者に対するヴァーチャルリアリティーを用いた評価・治療の可能性についての予備的研究（新規）
9. 共同研究（株式会社スカイシーファーマ）, 横山茂
抗オキシトシン抗体の評価（新規）
10. 共同研究（株式会社スカイシーファーマ）, 東田陽博
オキシトシン類縁物の中樞神経への薬理効果（継続）
11. 共同研究（株式会社リコー）, 三邊義雄
脳の個性を生かした子どもの健やかなこころの育成：特異から得意へのパラダイムシフト（継続）
12. 平成 30 年度金沢大学共同研究支援制度, (代表 富山県立大学 清家美帆) 辻知陽
実大トンネル避難実験でのオキシトシン濃度計測によるストレス評価（継続）
13. 公益財団法人 武田科学振興財団 2017 年度 医学系研究奨励, 熊崎博一
幼児用 MEG を用いた自閉スペクトラム症児における嗅覚特性と社会的認知発達の因果関係についての解明（継続）
14. 公益財団法人 栢森情報科学振興財団 平成 28 年度研究助成, 熊崎博一
発達障害者へのコミュニケーション支援のためのロボット遠隔操作技術の開発（継続）